

2018年4月初旬配本予定

吉田克朗研究冊子

吉田克朗の「Cut-off」という言葉について
— “視ること” とミサイルの関係

発行 = ユミコチバアソシエイツ

artist

吉田克朗

essay

山本雅美 (船橋市教育委員会 学芸員)

design

小沼 宏之

価格：1,000円+税 / A5判 / 32頁 / モノクロ

2018年4月1日発行 / 和英併記

ISBN978-4-908338-11-3 C0070 1000E

吉田克朗（1943～1999年）は、現在「もの派」と呼ばれる作家群の一人であるが、彼の活動時期のなかで「もの派」とよばれるような立体作品を制作していた時期はきわめて限定されており、1968年～1972年の4年間に集中している。（略）このような作品群の大半のタイトルに「Cut-off」をいう言葉をつけている。

——山本雅美『「吉田克朗」の「Cut-off」という言葉について— “視ること” とミサイルの関係』の本文より

1. はじめに
2. 立体造形（オブジェ）と《Cut-off》シリーズ
3. 《Cut-off》という言葉——制作ノートから
4. 《Cut-off》シリーズのその後

本書では、吉田克朗を長年研究されてきた山本雅美氏が「Cut-off」というタイトルを手がかりに吉田作品に込められた思想を読み解みます。



吉田克朗《(作品名不詳)》1968年
写真提供：吉田梨子
©Katsuro Yoshida

On Katsuro Yoshida's
use of the term "cut-off"

The relationship between "seeing" and missiles

「吉田克朗の「Cut-off」という言葉について— “視ること” とミサイルの関係



吉田克朗（よしだかつろう）略歴

1953年に埼玉に生まれ。1968年多摩美術大学絵画科卒業。在学中は斎藤義重教室で学ぶ。1968年から70年代にかけて《Cut-off》シリーズをはじめとする物質性の強い立体作品を制作し、「もの派」のひとりとしてデビュー。

1968年第8回現代日本美術展、69年「現代美術の動向」展、70年「現代美術の一断面」展、71年「パリ青年ビエンナーレ」に出品。また、1969年から風景や人物のスナップ写真を使った版画の制作を始め、70年第1回ソウル国際版画ビエンナーレで大賞受賞。以後、72年クラコウ国際版画ビエンナーレほか国内外の版画展に出品。1973年-74年文化庁芸術家在外研修員としてイギリスに滞在。1980年代からは絵画の制作を始め、人体の一部をモチーフにした《かげろう》シリーズ、直接手で描かれた《触》シリーズを制作。1999年死去。

吉田克朗 個展 (2018年4月20日から5月19日開催)
<http://www.ycassociates.co.jp/viewing-room/>

▶ご注文はツバメ出版流通まで FAX: 03-3721-1922

mail: info@tsubamebook.com
TEL: 03-6715-6121 <http://tsubamebook.com>

貴店名 (番線印)	http://www.ycassociates.co.jp/	
	Yumiko Chiba Associates	
ご担当： 様	返品条件付注文扱い 返品了解 ツバメ出版流通：川人	
	冊	新刊『吉田克朗の「Cut-off」という言葉について — “視ること” とミサイルの関係』 1,000円+税 A5判 ISBN 978-4-908338-11-3